

12/18(土) まいど / 倫理号 今年も残り所僅か 後始末を疎かにしないで

前に進みたいものです。反省！
幸せな心で一息

2021. 12. 18～12. 24

今週の

倫理

12月のテーマ | 後始末

1260号

人間の体の機能は、前方に動きやすく作られています。

脚は前に向かって歩くには何の不都合もありませんが、後ろ向きに歩くと足首や膝に負担がかかります。腕も同じで、前にある物をつかむことは難なく出来ても、背後にあるものは、つかむどころか、触れることさえ困難な場合があります。目の機能は先方であり、視野は正面から耳側に約九〇〜一〇〇度の範囲と言われ、正面を向いたままでは後方を見渡すことはできません。

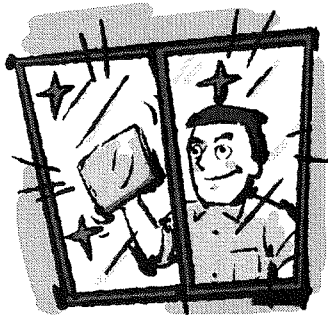
そうした体のつくりのせいもあるのか、人間は自分が進むことに関しては強く興味を持ち、努力を惜しみません。その反面、「今」を起点にした後方、いわゆる「振り返り」や「後始末」に関しては苦手意識が強く、疎かになってしまいう傾向にあります。

近年、高度情報社会が生み出す世論は、スピードデーターに前進することを助長します。生身の人間には処理しきれないほどの情報量に翻弄され、「前に進まされている」といった向きが否めません。

日本を含めた資本主義を採用している国は、競争市場を特徴の一つとしているため、物やサービスの価格と総量は競争によって決定されがちです。ゆえに競争に勝つための「新しさ」が求められ、前進することに拍車がかかる構図は不可避と言えます。こう見てみると、私たちが生きる現代は「振り返り」や「後始末」に意識を向けづらい状況にあると言えるでしょう。

しかしながら、「振り返り」や「後始末」

力強い推進力は 見事な後始末から



には重要な意味があります。それは反対方向ともいえる「前へ」向かうための不可欠な要件でもあるといえるのです。

純粋倫理を支える「七つの原理」では「あらゆる物事には、方向や性格が対立し相反する二つの要素が認められる」とする「対立の原理」というものがあります。「上」には「下」があり、「表」には「裏」があります。「高低」「明暗」「虚実」「男女」「老若」「主従」など、すべて対の構造です。

さらに、この「二つの要素は、互いに相反する傾向を持ちながら、一方があつて、はじめてもう一方がある」という関係性でもあります。「上」があるからこそ「下」であり、「明るい」に対しての「暗い」です。一方の概念がなければ、もう一方の概念をわざわざ持つ必要がなくなります。

とすれば、「前」という「未来」をより良いものにしようとする時には「前」に対する「後」、「未来」に対する「過去」といった反対側の要素との均衡がとれていることが大切でしょう。前に進むことばかりに意識を奪われて「振り返り」や「後始末」という「過去」の面を疎かにしていると、より良い「未来」に到達することはないといいられます。

一口に「後始末」と言っても、その対象は「物」に限ったことではありません。様々な場面で「考え」や「心」を整理することも大切な「後始末」です。深い感謝をもつてしっかりと「後始末」を行ない「前」という「未来」に向かって進みたいものです。

十二月後一息

「キケンな世」のホツケに手をいれ

歩くまへ

いこうぞ